

町長はなぜ防災を

No.41

一宮町長
馬淵 昌也

今年の9月10日は、うち続く台風の来襲に苦しめられました。9月8日夜から9日にかけての台風15号は、暴風の被害を千葉県にもたらし、一宮町でも、大勢の方が住宅や農業施設の損壊を受けられ、停電に苦しめられました。

10月12日の台風19号、そして10月25日の21号の被害は、さいわい一宮町は比較的軽微でありました。しかし、19号は、その激しい雨により、千葉県を除いた関東・南東北の各県で、大規模な河川の氾濫や土砂崩れを広範囲で起こしました。21号は、千葉県を中心に大雨を降らせて、茂原や長柄で大きな浸水被害を出しました。そして、どちらも尊い命が奪われてしまいました。

千葉県は、従来、大きな自然災害に見舞われることが少なく、比較的安全な土地柄である、と広く認識されてきたように思います。しかし、その甘い見通しは、今回の2ヶ月にわたる災害の来襲によって、粉々に打ち砕かれてしまいました。

こうした一連の災害の経験の中で、わたくしどもが最も重要だと痛感したことは、早期避難の重要性です。各台風でなくなられた方々には、避難が遅かったことによる落命された方が多くいらっしゃいます。やはり、災害時は、できるだけ早く避難することが、最

良の道だと、改めて認識させられました。

一宮町でも、15号のときは、避難された方は、最大時で17名でした。しかし、19号では、事前の報道において、台風の強大さが強調されてしまったので、皆さま避難の重要性を強くお感じになられ、最大時で530名に上りました。これだけ多くの方が避難されたのは、2011年の東日本大震災以来です。しかし、これは大変ありがたいことであり、また正しいことです。避難して頂くことによって、皆さまの命の無事は間違いなく確保されるからです。

専門家によると、地球温暖化の影響により、今後は毎年巨大な台風や豪雨が日本各地を襲う可能性が高い、ということです。だとすれば、私たちがまず心に期すべきことは、危険が見通せる状況では、とにかく出来るだけ早く避難すること、これが最も大事です。「避難するのは恥ずかしくて」と言っている方をニュースで見ました。避難することは全く恥ずかしくありません。

役場では、ハード関係・ソフト関係で町の防災力を高める努力をいたしますが、同時に、町民の皆さまには、早期避難の重要性を、心に深く刻んで頂き、命を守る行動をとって頂きたいと存じます。